



リアルハプティクス技術を応用した
ソリューション開発を目指す企業との

共同研究開発促進事業

ー ご参加の手引き ー

慶應義塾大学ハプティクス研究センター
リアルハプティクス技術協議会

力触覚をCyber世界に繋いで21世紀を創造



- ❖ 慶應義塾大学ハプティクス研究センターはリアルハプティクス技術を進化させると共に、広範な産業界に遍く普及させ、人に優しい社会に貢献することを目標として活動しています。人間は接触動作においてリアルタイムで状況を把握しながら、柔軟で優しい動作を実現しています。
これはリアルな力触覚に依るもので、人間にとってはごく当たり前のことです。
- ❖ しかし、多くの機器・ロボットはこの力触覚を感じることなく動作してきました。特に身の周りの多様な操作対象（不揃い/軟弱/脆弱/自然産物/生き物）に適応することが苦手でした。リアルハプティクス技術を機器・ロボットに組込むことで、機器・ロボットの人工知能とその動作を繊細な神経で繋ぐことができ、対象に優しい動作が実現できるようになります。
- ❖ リアルハプティクス技術は慶應義塾大学の大西公平教授が2002年に発明したもので、2011年に原理特許を取得しました。
リアルハプティクス技術は日本発の独創技術なのです。

ご参加をご検討の企業のみなさま



2015年に促進事業を開始し、既に90社を上回る参加企業との間で密度の高い共同研究開発を実施し、実施事例も出て参りました。

引き続き、共同研究開発を希望する企業との促進事業を実施しております。
以下のような活動に限定されることなく、様々な活動のお手伝いが可能ですので、
気軽にお声がけください。

- ① 世界に類例の無い技術で、新市場を開拓したい
- ② 企業や業界の中での困りごとの解決、展開方法を考え、展望を持ちたい
- ③ ハプティクス研究センターと共同で研究開発を行い、新たな技術と新しい
市場や製品に結びつけたい
等々

リアルハプティクス技術協議会の活動



- ❖ 慶應義塾大学ハプティクス研究センターはリアルハプティクス技術協議会を設立・運営し、会員によるリアルハプティクス技術を利用した応用システム構築と、新たなビジネス立ち上げ促進を支援しています。
- ❖ 共同研究開発促進事業に参加する企業は、リアルハプティクス技術協議会にご入会いただくことで、以下の活動が可能となります。
 - 共同研究開発（リアルハプティクス技術を容易に使うためのカスタムLSIである AbcCore®を貸与しております）
 - 相互互恵や事例研究などの補完的なサービスを利用
 - 慶應義塾大学の知財やノウハウの利用
- ❖ 共同研究開発後の市場展開・製品化にあたっては、慶應義塾大学発ベンチャーと連携いただけます。

* AbcCore®はモーションリブ株式会社の登録商標です。

共同研究開発の支援促進体制



- ❖ 明確な市場責任を持ってリアルハプティクス技術の産業界での普及を促進するため、支援促進体制を整えています。

- ❖ 支援促進体制

ハプティクス研究センター

リアルハプティクス技術に関する知的財産権の包括的な管理を担うと共に技術の更なる進化とその多面的な展開を主導します。

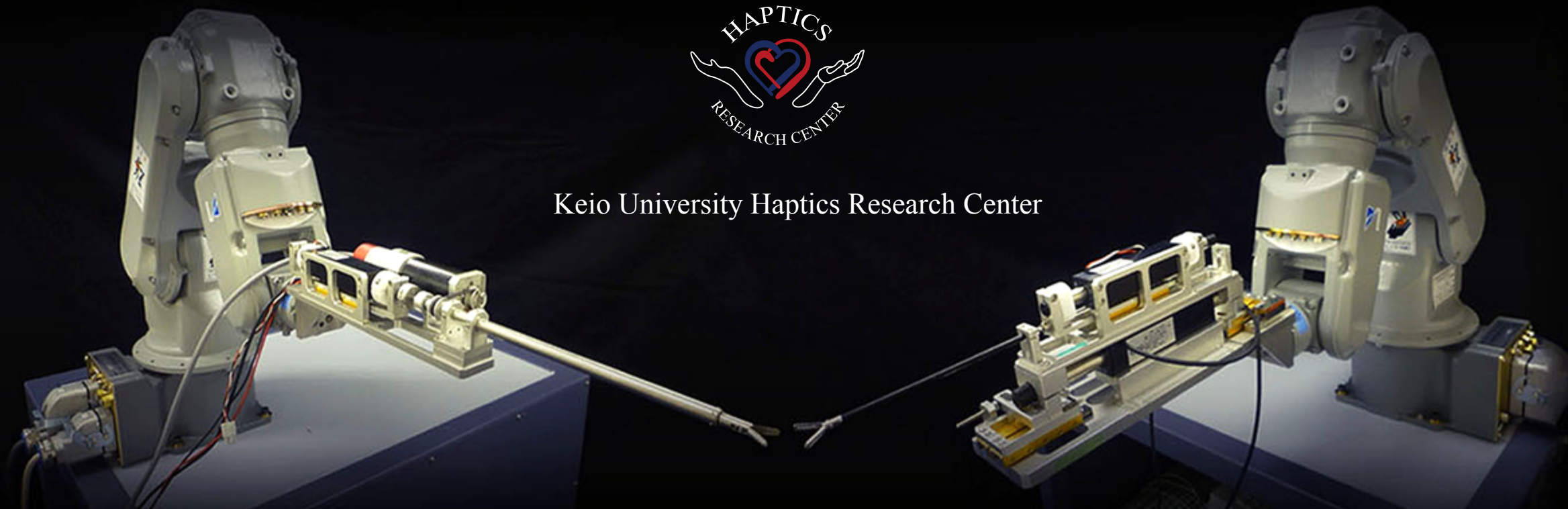
リアルハプティクス技術協議会

ハプティクス研究センターの下で、リアルハプティクス技術の応用を担う先進的な企業を組織して、協調的で持続的なRH技術応用の発展を進めます。





Keio University Haptics Research Center



ご相談・お問い合わせをお待ちしております。

慶應義塾大学ハプティクス研究センター

E-mail : contact@haptics-c.keio.ac.jp